

小雪の中・武部宅カインヨ掃除

4月7日(土)時々小雪の降る中、武部義昭さん宅(砺波市頼成)の屋敷林掃除を10名の会員でおこなった。4日前の4月3日、県内全域の大風で武部さん宅のスギ大木の倒れたことも加わり、予期しない落枝葉掃除となった。

武部さん宅はスギ中心にメタセコイア、マツ、エンジュ、イチヨウの高木に加えタラヨウ、タイサンボク等が家屋を全方位から包む樹叢の厚い家だ。

しかも武部さんは木の成長に期待し、樹芯伐りには否定的で、20m近い高木となっている。中心となるスギは昭和初期の植栽で、その手入れは武部さん自身でやってこられた。しかし今では高齢になり手はかけられなくなったとのこと。

約2時間、手際よく落枝葉を熊手でかき集め、2組のタンカ班で外側の2ヶ所へ運んだ。

小雪の舞う中だったが、全員精一ぱい身体を動かし、屋敷のほぼ全域の掃除をした。

作業の後、奥さんの用意されたゼンザイをいただき武部さんから「カインヨの生いたち、変わった樹木の入っている理由」等の話をきいた。

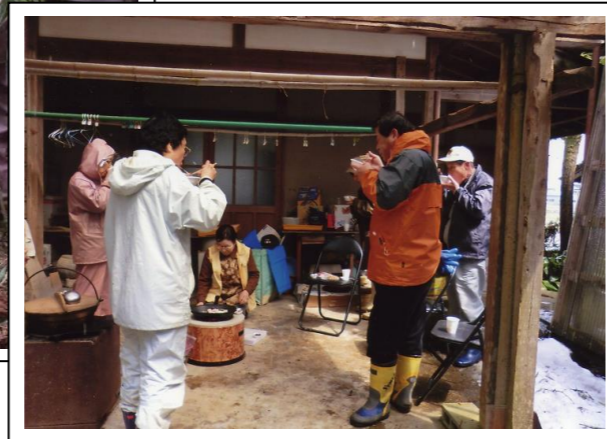
参加した中田ちず子さんは「しばらくの間だったが良い手伝いができた。これからも大いに参加したい」と話していた。

この日の掃除は、当初3月31日(土)の予定だったが大雨で延期したもので、それぞれやりくりしての参加であった。武部さん御夫婦から喜びと感謝の礼状が倶楽部へよせられた。

北日本新聞と富山新聞が作業の様子を取材し次日朝刊で報じた。



小雪舞う中での掃除



ゼンザイが冷えた体を温めた

「カインヨ壁新聞」展を開催

2月20日(月)から3月20日(火)まで、となみ散居村ミュージアムで砺波市立南部小学校4年生の「カインヨ壁新聞」展を、ミュージアムと当倶楽部共催で開催した。

手伝った理由は、学校の総合学習時間に、カインヨをテーマにこの一年間「ミュージアムでの学習」・「学校林の見学会」・「学習発表会」・「講座」・そして今回の「カインヨ壁新聞」と続けてカインヨとむき合っただけの勉強にあった。53名全員が模造紙を使ってそれぞれの思いを新聞風に作り、中にはイラスト入りもあった。

子供達の受け止め方と、決意、期待が、楽しく表現されていた。正面からカインヨに立ちむかい勉強したことは、必ず大人になって生かされることであり、カインヨ保全への力となるにちがいない。

こうした取り組みがもっと広がる期待もこめ、作品展にとりくんだ。

× × ×

終了後、柏樹代表幹事と高畑邦男幹事が、3月21日市立南部小学校を訪ね、子供達に感謝と励ましの言葉とノートを贈った。4年生の担任や重原千栄子校長とも懇談した。

又、この展示の写真集(手づくり)を作り保存することにした。

(かべ新聞展のスナップ)



春の爆弾低気圧でカイニヨ多数倒木

4月3日(火)終日県内全域を爆弾低気圧(大風)がおそい、砺波ではカイニヨの倒木、建物・農業ハウスの破壊等の被害が出た。

最大風速 39.8m/s (庄川 51.0m/s) と春の風では観測史上始めてと報じられた。風向は午前中南風・午後は南西に変わって2時から3時頃の風が強く、雨が混じり、スギの大木の根元からゆすり、根こそぎ倒された。又樹高5~6mの幹に障害のあるところでへし折られそれが隣り木によし掛かり共倒れし、母屋や土蔵の屋根にかかる状況が多発した。

倒木は砺波市、南砺市の平野部で広く発生した。又農業ハウスや物置、トタン屋根・シャッターの破壊が多発し、トラックもたくさん横転した。砺波では、風であおられたシャッターの直撃で一人が死亡した。平成16年の台風23号以来の大風だった。

× × × ×

被害内容と位置、倒木状況の観察等を通し、今後への対応策を検討する事がもとめられている。また、当倶楽部で昨年提言した「風に強いカイニヨづくり」を広く告知することが望まれる。

いろいろな住民の声が出される中、特に維持困難を訴える高齢者の思いにどの様に應えるかが大きな課題である。



上部：秋元のMさん宅
右上部：鹿島のMさん宅
右部：頼成のTさん宅

****総会と勉強会の案内****

■総会

□日時 平成24年5月26日(土)午後2時より

□会場 中島家(チューリップ公園内)

- 議案 1. 平成23年度事業報告及び収支決算
2. 平成24年度事業計画(案)

■勉強会(総会終了後)

□演題 「カイニヨをテーマにした学習をして」

□講師 県教育委員会 今泉登希子先生

中島家の総会は、囲炉裏に火を焚いていますので、ススのニオイが衣服に少し染み込みますがとても心地良く、哀愁もあります。県内で五箇山の合掌造りと中島家だけしか薪の囲炉裏は無いでしょう。

以前、外国の子供達が火を焚いた囲炉裏を見て「家の中で焚き火をしている」と驚いていました。近代国家では一般に暖炉ですが、日本は開放的な囲炉裏です。

まして建物は燃える木造です。



少し昔の日本人は、火の特徴を十分知り上手に扱うことが出来ました。チューリップフェアで、えんなか会の人達が囲炉裏に火を焚いてお茶を出し休憩所を開いておられます。沢山人達が驚き・感激して囲炉裏の廻りに座ります。日本人と囲炉裏の火の関係はDNAに深く位置づけられているはずで、近年、台所もIHの電気になり、火から遠く離れた生活です。将来を担う地元の子供達にも囲炉裏の火を体験させてやりたいものです。

お忙しいと存じますが、どうぞお誘い合わせお越し下さい。(事務局より)